the People

元気なまちには　元気な主張を続け
元気に行動する　市民がいる

the people（ザ･ピープル）
2012年　9月発行

発　行：特定非営利活動法人 ザ・ピープル
代表者：吉田　恵美子
所在地：福島県いわき市小名浜字蛭川南5−6
タウンモールリスポ内
TEL：**0246−52−2511** FAX：**38−9538**
E-mail：the-people@email.plala.or.jp
ＵＲＬ：http://www.iwaki-j.com/people/

オーガニックコットン収穫へ

今年度地球環境基金の助成事業として進めている「いわきオーガニックコットンプロジェクト」の有機農法でのコットン栽培も、いよいよ収穫時期を迎え始めました。

例年に比べ極端に降水量の少ない今年の夏、初めてコットンを育てる私たちにとって、栽培は決して簡単ではありませんでした。本会の栽培地の管理をしているスタッフは、大きな水タンクを入手して古着回収用のトラックに積込み、日中の暑い日ざしを避けて早朝と夕方に畑での水遣り作業を行うといった日々が続きました。苗は育ち始めるまでにかなりの時間がかかり、それぞれの栽培地で背丈も太さも大きなばらつきが出ました。それでも、僅か30㎝ほどの背丈の苗にも、人の背を超えようかという木と呼びたいほどしっかりした茎にも、オクラに似て花芯を赤く染めた黄色の花が咲いた後に、緑色の小ぶりなピンポン球のようなコットンボールが実り、地面に近いものから順に弾け始まりました。中には、実ったコットンボールの重みで撓り出す枝もあり、慌てて支柱をあてがったりもしています。茶綿の薄茶色の綿がぶら下がっている様子は、まるで誰かが悪戯で小さな縫いぐるみをぶら下げて廻ったように見えます。

市内15箇所1.5haの栽培地のうち、水不足の為栽培を断念せざるを得なかった畑が２箇所出てしまいましたが、概ね収穫を見込めるところまで来たとそれぞれの栽培地を管理する仲間が知らせてきています。ここまでの生長を支えてくださったのが、首都圏などからいわきの農業を応援しようと来てくださった数多くのボランティアの皆さんです。種蒔きに始まり、草取り、支柱立てなど総勢500名を超える方々の力添えを得て、栽培は進められてきました。心から感謝したいと思います。

これからは、収穫時期に入ります。11月初旬には収穫祭の計画も進められています。種蒔きや草刈に来てくださった援農ボランティアの皆さん、そしてそれぞれの栽培地の近くにお住まいの皆さんや近くに避難して来られている皆さんにも、是非収穫祭に加わっていただきたいと思います。

いわき緑の分権改革コンソーシアムに参画

いわき市が、総務省から「緑の分権改革」被災地復興モデル実証調査を受託しました。

それぞれの地域資源を最大限活用する仕組みを地方公共団体と市民、NPO等の協働・連携により創り上げ、地域の活性化、絆の再生を図ることにより、地域から人材、資金が流出する中央集権型の社会構造を分散自立・地産地消・低炭素型に転換し、「地域の自給力と創富力を高める地域主権型社会」の構築を実現しようとするのが「緑の分権改革事業」です。

特に、東日本大震災の被災地の復興に向け、豊富な自然環境や再生可能エネルギー等の地域資源を最大限活用し、域内循環を進め、地域の自給力と創富力を高めていく「緑の分権改革」を被災地において推進するため、東日本大震災により被災した地方公共団体におけるモデル的な事業の実証調査が求められました。そこにいわき市が事業提案を行ない、受託となりました。

本会やNPO法人インディアン・ヴィレッジ・キャンプ、NPO法人ふよう土2100がコンソーシアムを組み、その事業のお手伝いをさせて頂くことになりました。本会が担うのは、オーガニックコットン栽培を事業として成立し得るものにまで高め、農業再生、新たな産業創生を市民の力で進めること。地球環境基金の助成を受けてスタートした試験的な栽培が、次のステップへと踏み出すことになります。

9月29日㈯には、本事業のキックオフフォーラムを開催し、いわきの持続可能な未来への想いや各プロジェクトの概要を紹介します。また、ドイツで市民による市民のための電力供給会社を誕生させたドキュメンタリー映画「シェーナウの想い」の上映も行います。市民主役の復興まちづくりに関心のある市民、団体の皆様にぜひご参加いただければと思います。

市民による市民のためのフォーラム
いわき、明日のこと
オーガニックコットンから自然エネルギーまで、
私たちができる、希望のまちづくりをはじめましょう。

【日　　時】９月29日㈯　13：15〜17：30（12：50開場）
【場　　所】いわきワシントンホテル
【プログラム】
＜第１部＞13：15〜14：30　コットン栽培に取り組んで下さっている皆さんの紹介〜オーガニックコットンやスタディツアーの構想プレゼンテーション
＜第２部＞14：45〜16：20　映画「シェーナウの想い」上映〜いわきコミュニティ電力トーク
＜第３部＞16：30〜17：30　市民が主役、サステナブルシティいわきを作ろう！交流会

つぶやき

東日本大震災から１年半。この間の目まぐるしさは尋常ではない。忙しさは日を追って拍車がかかっている感じである。▼ピープル本来の事業である古着リサイクル活動は、震災直後からフル回転したといっても過言ではない。ストックしていた古着が避難所への支援物資として直ちに活用できたからだ。そしてスタートした小名浜地区災害ボランティアセンターには、瓦礫の撤去作業に全国からボランティアさんが毎日のように駆けつけてくださった。多い日は１８０人。毎日届く支援物資。その整理とニーズに応じた配布作業。全てがボランティアさんの協力で取り組まれていった。その後、社会の活動は３か月間続いた。状況が変化しニーズも変わっていった。心のケアを中心とした取り組みが必要となった。この時点で復興支援ボランティアセンターに移行した。現在、様々な支援活動の拠点として稼働している。▼ところで、現在いわき市には原発事故で避難を余儀なくされた双葉８町村の方々が移住されてきている。仮設住宅と市内の借上げ住宅にお住いの方々を合わせると何と２万人以上となる。あの狭苦しい仮設住宅での生活はどれほど辛く不便なことだろうか。まして先の見えない状況の中では希望さえ失せてしまうのではないかと心配になる。私たちはそうした方々に対し希望と喜びを提供する使命があると思う。▼本会にはボランティア活動をしたいとの申し込みや相談が毎日のように入ってくる。「音楽と踊り」「マッサージ」「カットサロン」「落語」等々。先日は東京の方から本格的フラメンコの提供があった。仮設住宅の集会所にコンパネを敷いた即席の舞台。先生とお弟子さんの見事な踊りに皆さん大興奮。「オッレー!!」の大歓声の中、私も一緒に踊り始めた。▼つい先ごろ、中部リサイクルの会からアクリルタワシ４００個の注文を頂いた。仮設住宅のお母さんたちが取り組んでいたことを知っていたので連絡すると早速ＯＫの返事。そしてあっという間に仕上げてくださった。「集会所で皆で楽しく作っています。」とのメッセージを添えて送った。一品一品に手作りの暖かさと希望が感じられる素晴らしい作品だと絶賛の声が届いた。これらのことを通し、避難して来られた方々が喜んでくださることなら何でもやろう！橋渡しの役になれるなら何でも引き受けよう！と決意した。▼山形県長井市には福島県から避難された方々が多いという。野菜を作っているのでその販売先を探していると聞くや「分かりました。送ってください」と引き受けてしまう。周りからは「ムリムリ」と笑われるけれど「大丈夫！何とかなるから」と走り出してしまう。忙しさを自分から追いかけているような生き方に我ながら呆れる私である。（K）